

CASBEE新潟 | 評価結果 |

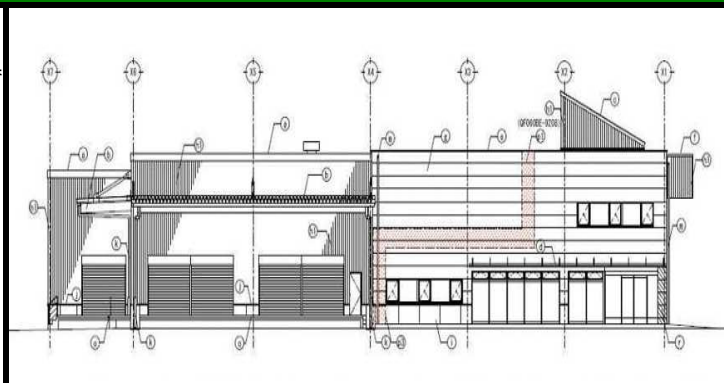


■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版

■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	新潟ヨコハマタイヤ株式会社社屋計画
建設地	新潟県新潟市西区小新流通東16番、17番
用途地域	準工業地域・法第22条地域
建物用途	事務所,工場,
竣工年	2026年1月 竣工
敷地面積	4,958.70 m ²
建築面積	2,262.78 m ²
延床面積	3,704.95 m ²
階数	地上2F
構造	S造
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2025年2月7日



2. CASBEE新潟の評価結果

	B-	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{38.6}{50.4} = 0.7$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に 使い続けるために	平均スコア 2.8		バリアフリー計画 維持管理 設備の更新性	Q2.1.1.3 Q2.1.3 Q2.3.3	1.0 4.0 3.4
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産 を守るために	平均スコア 2.9		耐震・免震・制震・制振 信頼性	Q2.2.1 Q2.2.4	3.0 2.8
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりの ために	平均スコア 3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 4.5		建物外皮の熱負荷抑制 自然エネルギー利用	LR1.1 LR1.2	5.0 4.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づく りのために	平均スコア 3.3		節水 躯体材料以外でのリサイクル材の使用 部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.1.1 LR2.2.4 LR2.2.6	4.0 1.0 5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代 に引き継ぐために	平均スコア 1.5		生物環境の保全と創出 敷地内温熱環境の向上	Q3.1 Q3.3.2	1.0 2.0
7. 新潟のまちらしさへの取組み 地域の個性や魅力を活か したまちづくりのために	平均スコア 2.0		まちなみ・景観への配慮 地域性への配慮、快適性の向上	Q3.2 Q3.3.1	2.0 2.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

省エネ基準の数値引き上げ等が施行されているので、外皮の熱負荷抑制や、一次エネルギー両肥料の抑制等に考慮した

CASBEE[®]新潟

評価結果

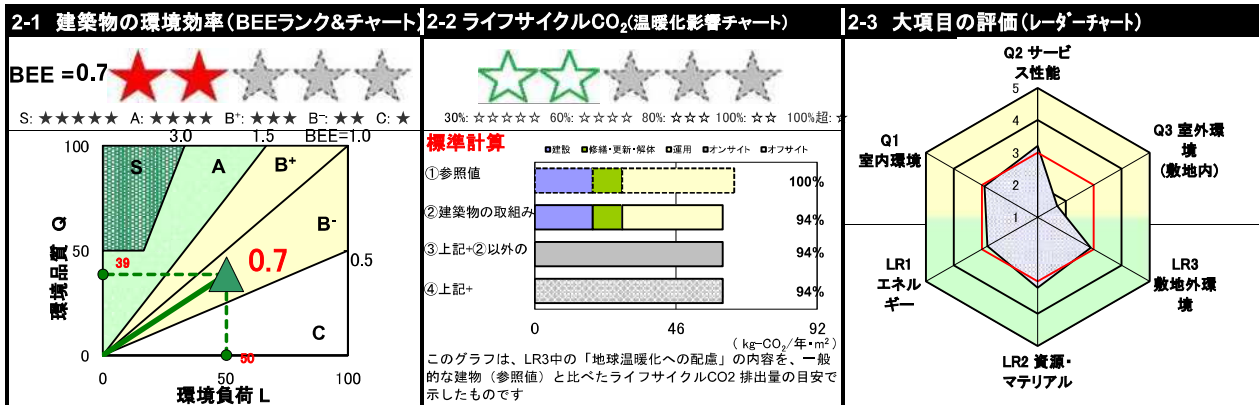
■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新潟コハマタイヤ株式会社社屋計画	階数	地上2F
建設地	新潟県新潟市西区小新流通東16番、17番	構造	S造
用途地域	準工業地域・法第22条地域	平均居住人員	25 人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,960 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 竣工	評価の実施日	2025年2月7日
敷地面積	4,959 m ²	作成者	鈴木 匠
建築面積	2,263 m ²	確認者	
延床面積	3,705 m ²		

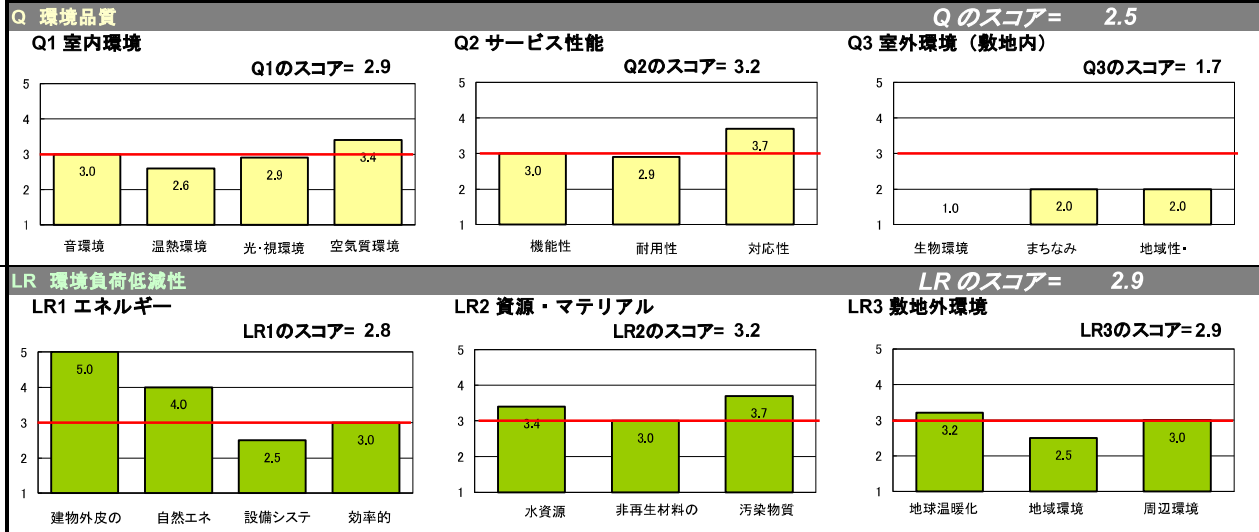
外観パース等

図を貼り付けるときは

シートの保護を解除してください



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
敷地乗り入れから、建物までの車両同線等、搬入出ししやすい建物形状、開口部を計画した。		—
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
主たる居室の換気設備には、全熱交換器を採用することで、室内環境の快適性、冷暖房負荷に配慮した。	天井には点検口を適切に設けることで、メンテナンス性及び修繕時の対応も容易に行えるよう配慮した。	空調室外機を置き上に設置することで、外部環境への騒音・振動の低減に配慮した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
開口部及び外壁の断熱性能を高めることで、冷暖房の一次エネルギー消費量の削減を図った。	断熱材には、主としてグラスウール断熱材を使用した。	屋外の看板照明の点滅方式は、タイマー+自動点滅器を併用することで、適正時間での点灯・消灯出来るよう考慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される